

行政



住民に関われた議会と
より身近な行政を目指して

議会



長崎武利議長



プラズマディスプレイによる議会の生中継(そびあしんぐう)

住民が主役となったまちづくりを進めていくためには、住民の要望が行政運営に生かされる仕組みづくりが必要です。そのため行政組織の合理化や職員の研究などに努めています。

町の行政組織は、町長部局の各課のほか、教育委員会、農業委員会、選挙管理委員会、監査委員で構成され、議会と連携をとりながら町政の運営を行っています。また外郭団体として、社会福祉協議会と文化振興財団が福祉と文化振興それぞれの分野で各種事業に取り組んでいます。

町の公共施設としては、役場庁舎のほか、「シーオーレ新宮」や「そびあしんぐう」などがあり、これらの施設の特長を生かしたソフト面での事業に、力を入れて取り組んでいます。

一方で、地方分権が進む今日、住民の視点に立ったまちづくりを進めていくことが重要になっています。そのためには、行政運営のさまざまな分野で、積極的に住民と協働する体制づくりも必要です。今後は、住民参画のルールづくりをはじめとした、新しい行政運営のあり方を、住民とともにつくっていきたくと考えています。

いま地方分権時代の幕開けで、市町村を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。「地方が自ら考え、自ら行う」という地方分権のテーマに従い、地方の裁量権が拡がったことは歓迎すべきですが、新宮町独自の判断で行われる政策も増えるため、私たち議会も、住民ニーズに沿った行政が行われるように、住民の代表としてのチェック機能を果たしていきたいと考えています。

新宮町議会は、16名の議員で構成されています。年4回の定例会と必要に応じて招集される臨時議会の場において、町の条例や予算等について審議し、議決するほか、高度化・専門化する行政事務を効率的に調査し、審議するために総務・教育厚生・建設産業の三つの常任委員会を設置し、住民意見が反映された町政が行われるよう心掛けています。

また、議会の活動内容を住民の皆様にご理解いただくため、常任委員会報告や一般質問の内容を議員の手作りによる「議会だより」として、定例会毎に全世帯に配布しています。

さらに、平成14年12月からは「みらいねっと21」により、庁舎・シーオーレ新宮・そびあしんぐうのロビーにおいて、議会の本会議を生中継しています。